山陽子ども新聞

岡山県内の小中学生25人が春休みに取材、執筆した「山陽子ども新聞」第34号を発行します。子ども記者は実際に現場へ足を運び、感動と発見を経験しました。どの記事も「伝えたい」という思いにあふれています。

病院長

患者さんのことを第一に考えられている猶本先生がかっこよかった

丁寧な積み上げ大事

【岡山市・岡山大付属中1年、矢延悦一】

消化器外科を専門とする川崎医科大学総合医療センター（岡山市北区中山下）の猶本良夫病院長(65)を取材した。

移植手術の難しさに関する記事を読んだことがあり興味を持っていたので、手術で気をつけることについて尋ねた。「心臓移植を分解すると1万くらいの操作があり、一つずつは難しくないが、1万回手抜きせずに集中して丁寧に積み上げていけるかが大事。常に患者さんや手術の在り方を考えないといけない」と教えてくれた。

がんが進行した場合の手術の難しさについても聞いた。真剣なまなざしで説明する猶本先生のお話から、がんの早期治療には定期健診を受けることが大事だと思った。

移植手術で大事な「一つ一つ積み上げていく」ことは、日々の生活にもつながり、生かすことができるのではないか。これからも健康や病気など、いろんなことに興味を持って追究していきたい。

ICU看護師

富阪さんからICUの役割を教わった

患者の人生を支える

【総社市・総社東小6年、秋山花鈴】

川崎医科大学総合医療センター（岡山市北区中山下）を訪ね、ICU看護主任の富阪幸子さん(42)を取材した。

ICU（集中治療室）では、主に手術後の重症患者管理を行っている。患者さんの状態を24時間、慎重に観察し、異常を早く見つけ適切に対応することが重要だ。それには、医師をはじめ看護師、臨床工学技士など、さまざまな専門医療スタッフの協力が不可欠だと富阪さんは教えてくれた。

仕事でうれしいときはどんなときか尋ねると、それは重篤な状態で運ばれてきた患者さんが元気になって、「退院します」と会いに来てくれたときだという。「苦しいとき、私たちが寄り添い支えることで、その方の人生が未来へつながっていく」。そこに大きなやりがいを感じるという。「患者さんの人生を支えることができる素晴らしい仕事」と優しい笑顔で話してくれた。

私は富阪さんのような看護師になりたい。

【倉敷市・真備中2年、古川夏美】

医師の仕事や手術について知りたいと思い、川崎医科大学総合医療センター（岡山市北区中山下）の猶本良夫病院長(65)を取材した。

猶本病院長が手術のとき一番大切にしているのは「患者さんが何を求めているのか徹底的に理解すること」。治療や手術の方法について考え方を共有し、理解し合うそうだ。また「医師、看護師、放射線技師、手術後のリハビリ担当ら、いろいろな人がチームとなって徹底的に準備をすることも大事」と話した。

"地道な努力"すごい

テレビドラマから、医師の仕事は華やかな印象が強かったが、毎日患者さんや病院のことを考え、治療に向けて地道に勉強や努力を重ねている様子が分かり、あらためてすごいなと思った。

「どんな時でも前向きに取り組むこと、どんなにたいへんでも逃げ出さないこと」という力強い言葉が印象的だった。これから私も勉強など、いろいろなことを頑張ろうと思う。